

原理研究会の真の姿明らか

新聞・週刊誌等が全面謝罪！ 裏付け欠いた誤報に関して

「新しい希望の群」——ある教授は原理研究会をこう評してくれました。しかし、私達に対して民青同盟や反原理共闘らの左翼学生は、原理研究会と友好団体である統一教会に対して、真憑性のない資料を用いて一方的に中傷宣伝をくり返してきました。「血わけ」人格破壊、K CIAの先兵だ、まさに悪魔の限り

「血分け」の事実なし

「週刊大衆」が全面謝罪

雑誌『週刊大衆』株式会社・双葉社は、昭和五十四年六月七日号において、原理研究会の友好団体である統一教会に対して、「統一教会に対するお詫び」と題する謝罪文（上段半ページ）を掲載しました。これは、同誌が昭和五十三年四月十二日号で、あたかも統一教会に「血分け儀式」があるかのような報道を行ったことに関するものです。

この全面謝罪は、原理研究会と統一教会を結びつけて「邪教集団」などと中傷してきた民青や反原理共闘などの論拠を、大きく切り崩すことになりました。

『週刊大衆』編集部が取材した人物、集団には「原理運動の研究」で知られる茶本繁正氏、「原理運動被害者父母の会」の本間テル子氏、木熊鉄雄氏、「原理被害者更生会」会長の後藤富五郎氏、といった人物が含まれています。

職業的反対活動家とも言えるこれらの人々に対し、徹底して確認のための追跡調査を行ったにもかかわらず、何ひとつ裏付けが得られなかったことで、彼らの流してきた情報がデタラメであることが確認されたのです。



統一教会に対する謝罪文を載せた『週刊大衆』(昭和54年6月7日号)

です。しかしこうした宣伝がいかに見当違いのものであるかは、その後マスコミや裁判で次々に明らかになっていきます。にもかかわらず、彼らは同様の宣伝をなおもくり返しています。つまり、彼らは、最初から事の本質を明らかにしようという気持ちなど全く持ち合わせてはいなかったのです。

K CIAとは無関係

フレージャー委員会敗北



フレージャー委員長

「原理研究会はK CIAが組織した謀略組織」という中傷の主な根拠となっていたのは、アメリカの国際機関小委員会（通称・フレージャー委）の報告書（一九七八年三月十五日発表）です。ところが、この報告書の内容は、このすべてが統一教会に批判的な立場をとる人々からのみ集められた、真実性の薄い伝聞資料だったのでした。

例えば、この報告書に含まれるC I Aレポート（一九六三年二月二十六日付）の中には「金鐘泌氏がK CIA部長時代に統一教会を組織した」という一文があります。ところが、実際、この資料はC I A自身が「評価していない」ものです。内容的にも、金鐘泌氏がK CIA部長であったのは、一九六一年五月から一九六三年一月五日までであり、統一教会が設立された一九五四年とは大きな食い違いがあって、全くデタラメなものです。

また、米国に亡命して反韓国活動に専念している元K CIA部長金炳旭氏の証言ですら、K CIAと統一教会との組織的つながりを否定しています。

こうして、三十四ヶ月、五十万ドルの巨額を使ったフレージャー委員会の調査にもかかわらず、K CIAと統一教会、という証拠は何ひとつあげることができませんでした。このことは、K CIAと統一教会は何ら関係ないことを証明するものです。

このような事実を無視し、なおもデマ宣伝を十年一日のごとくくり返しているのが日共の民青です。

英国議員が謝罪

イギリスは、労働党下議員、議員ル・ロー氏が、一九七五年四月統一教会に「統一教会の主張を全面的に認め、キリスト教において青年を洗脳し、性的虐待を奨励し、教会を搾取し、民衆を欺く」といふ「と某地方新聞公表して」

今への罪業無難のこの罪状に対し、キリスト統一教会・会長デニス・オム氏が答へて、



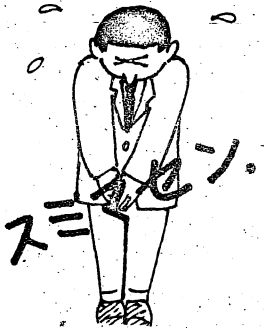
K CIAと無関係

「読売」が謝罪

読売新聞は、昭和五十三年一月十日朝刊で、「統一教会は金鐘泌氏が設立した」といふ記事を出し、「K CIAから日本に借金、統一教会を通じて半米留学費を贈与した」といふ記事を発表しました。この間、アメリカの不正洗脳情報をも手紙で送りつけています。

韓国の「反対運動家」が謝罪

韓国では統一教会の反対運動の中心人物であった白明徳氏及び、一九七六年九月十一日の韓国七大新聞「統一教会への謝罪文を掲載し、白明徳氏は、新興宗教研究所の所長を務めて統一教会



破綻する白系自治会の元マ宣伝

「反対父母の会」の調査結果 実証性のない、悪質な中傷

デタラメな数字

該当する人物も不明

日共系全学連傘下の自治会や民青同盟は、左のような資料を悪用して、学生の人権を脅かす狂気の集団、などと、原理研究会に言われなき中傷を行っています。

ところが、統一教会側のその後の調べで、この「調査結果」は、客観性を全く欠いたインチキ資料であることが明らかになっています。一例をあげると、アンケートの要請文には、「子供がなるべく精神病者や栄養失調になるように回答を作りあげて下さい」と書かれており、教会員を無理矢理「精神病者」に仕立て上げるよう指示しています。また、別掲表の※印欄のごとく、「反対父母の会」が数字に該当する個人名を示すことのできたのは、「行方不明32名」に対してわずか3名、「異常心理49名」に対してわずか6名のみで、意図的にいい加減な数字が並べられているのです。

改宗のため精神病院へ

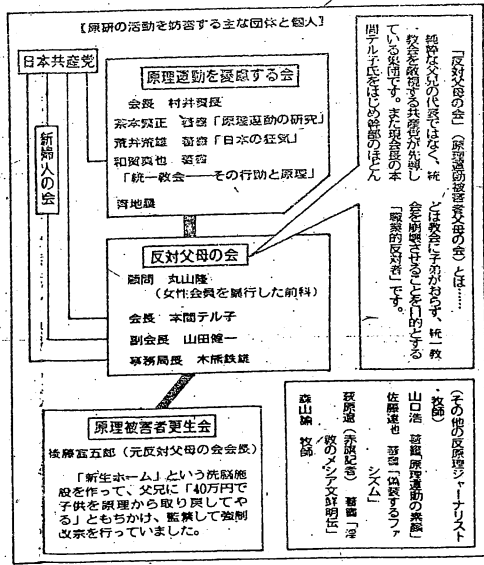
驚くべき人権侵害の実態

具体的に個人名があげられた各氏については、その後、統一

「反対父母の会」の調査結果
調査対象 119人

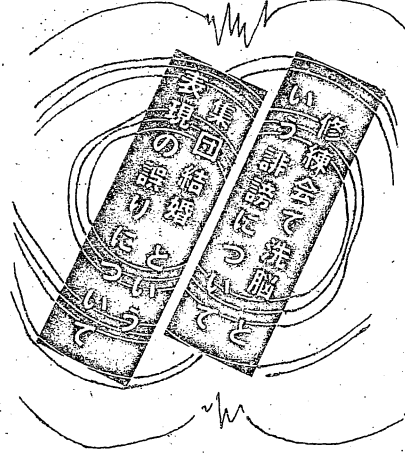
	※	※
死亡	3名	3
行方不明	32名	3
家出	90名	0
職場放棄	74名	0
学業放棄	61名	0
異常心理	49名	6
健康不良	61名	0
集団結婚	14名	0
パスポート所持	30名	0
帰省中、親が家族にもどした	28名	0
親が子供のために病気になる	15名	0
原理運動中交通事故にあった	2名	0
原理運動をやめ社会復帰した	3名	0

※印欄は個人名をあげることのできた数



原理研究会が行う合宿ゼミナールは、広く一般の学生に「統一原理」の内容を教授することが目的です。誹謗者たちは、「連続した教義の詰めこみで洗脳するなど吹聴していますが、実際には体操、休憩、質問の機会など設けてあり、この批判は全く当てはまりません。また、知性に恵まれている多数の大学生を「デタラメな理論」で洗脳できるはずありません。

人間を真に変えることができるのは「洗脳」などではなく、ただ神の愛と真理のみなのです。



統一教会の行事のひとつに「合同結婚式」があります。これは、個人個人の自由意思と責任において結ばれた「一夫一婦」間の結婚式を、幾組か同時に同じ会場で行うもので、神の前に世界人類が一つの兄弟姉妹であり家族であるという考えから行われているものです。しかし誹謗者たちはあえてこれを、「集団結婚」と呼び人々を誤解に導こうとしています。「集団結婚」という用語は、一夫多妻、多夫多妻などの乱れた結婚を意味する「集団婚」と同義語で、統一教会の結婚を正しく伝えるものではありません。

宗教迫害
言論弾圧
人権抑圧

を許すな!

新入生の太郎君と原研の郁恵ちゃんの大激突!!



定例研究会案内

- 内容
- 宗教と科学を統一した課題において解決し、人生と宇宙の根本問題を解明した理論。
 - ギリシャ、ローマの時代から、近代のヘーゲル、マルクス、キルケゴール、ヤスパース、ニーチェに至るまで、古今東西の哲学、思想を体系的に紹介した理論。
 - 疎外論、弁証法的唯物論、唯物史観、資本論の紹介とそれに対する批判と代案の理論。
 - その他、聖書研究をはじめ、テーマごとの研究発表。

日時 ● 月 日
ところ ● 棟 番教室

原理研究会 ⊗